いわき市医療構想会議（経過報告）

令和５年２月13日

【これまでの議論】

○　これまで、本市の医師確保の必要数算定に向け、現状を客観的に把握するとともに、これからの方策を検討するため、本会議での議論や病院への個別ヒアリングを進めてきた。

○　そしてこのたび、本市の医師数の現状を客観的に把握するため、全国の大学医学部がない中核市の平均医師数（以下「全国平均」）との比較で、医師不足の現状を、別紙のように試算した。

【注】大学医学部があると研究者等の医師数が上乗せされるため、比較対象に適さない。

【診療科ごとの実態分析の必要性】

○　この診療科ごとの数値を参考に、例えば、今後、10年間の本市としての目標値を定めることの適否の検討を行ったが、参加者より、以下のような理由から、全診療科一律に目標を設定する意義は薄いとの意見が多くを占めた。

⑴　病院診療科ごとに医師派遣・医師派遣継続の実態が異なる
　　（例）大学医局と結びつきが強い診療科とそうではない診療科を分けて議論する必要
⑵　診療科をまたいで診療する医師がいる実態があり、診療科を細分化する意義は少ない
　　（例）外科医が内科も診療するような実態
⑶　現役医師の年齢構成を分析する必要
　　（例）高年齢化が進む診療科は、より若い医師の確保が喫緊の課題である
⑷　今後の疾病構造は変化を遂げ、診療ニーズを見極める必要がある
　　（例）現状で、多くの死因を占めるがんは減り、心疾患や肺炎は増加
⑸　例えば、10 年後の目標設定などと悠長なことを議論している状況ではない
　　（例）目の前の診療科が閉鎖される危機に立つ病院の存在（市内病院間連携の必要性）
　　（例）他病院、コメディカル、総合診療医との連携で乗り越える可能性を模索すべき

○　そのため一律の長期的目標は設定しないが、まずは、現下の全国平均とのかい離（別紙）を埋めるための具体的方策を引き続き検討する。

【今後の予定】

○　まずは、現下の全国平均とのかい離（別紙）を、個々の診療科ごとに埋めていくことを目標に、診療科ごとの実態に合う、より具体的な方策を引き続き検討する。
○　令和5年度中に、引き続き、診療科ごとの多様な実態や見通しに関しヒアリング等を行う。
○　令和5年度末までに、診療科ごとの対応方策をとりまとめる。